

激動の経営

省エネの潮流

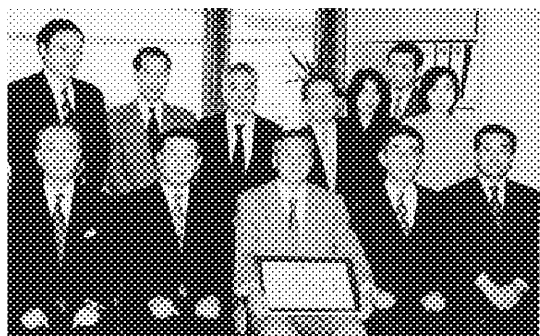
冷凍機を手がける日本熱源システムは自然冷媒の技術を中心に高い競争力を誇る。環境負荷低減、省エネルギー化の潮流に乗って業績は好調だ。社長の原

日本熱源システム ①

田克彦は「日本が自然冷媒冷凍機のトップランナーになるために頑張る」と世界を見据える。

4月に開いた主力の滋賀工場（大津市）の新棟完成式典には国内外の来賓550人超が出席。盛会の中、克彦とともに創業者・会長で父の原田昌彦も壇に立った。式典を振り返る昌彦は「立派な工場が建った」と感慨深げだ。克彦は「たいした激動もなく成長してきた」と話す。その言葉とは裏腹に、これ

自然冷媒技術で世界に



までの道程は決して平坦ではなかった。

自ら育てた事業

昌彦は高校卒業後に上京。働きながら大学で電気設計を学び、東京五輪・パリンピック

クで国中が熱狂した1964年に大手冷凍機メーカーに就職した。入社当初は設計を、その後には営業に転じ、国内ではまだ誰も手がけていなかったヒートポンプの事業を推進。普及に力を注ぎ、

営業の傍らメンテナンスマンも手がけた。大晦日の夜に「除夜の鐘を聞きながらメンテナンス」という猛烈ぶりだ。

▲創業当時の東京オフィス。前列中央が原田昌彦会長（当時は社長）

仕事仲間の応援受け独立

奮闘が実り事業は軌道に乗っていたが、86年に社は昌彦に異動を命じる。異動先はヒートポンプとは関係のない部署だった。自ら育てた事業への強い思いから、昌彦は家族に独立を打ち明ける。高校

独社との出会い

新会社は自社開発したヒートポンプシステムを各種施設に納入。圧縮機は設立当初、国内で調達していたが、後に米ビルター社（現エマーソン）製に変更。昌彦の次男が米国に駐在して調整役を務め、91年には大阪工場（現大阪第2工場、大阪府茨木市）でヒートポンプシステムの自社製造も始めた。

や約束をきちんと守る誠実さ」に惹かれた昌彦は、99年に日本市場進出の足がかりを探していたGEA社との協業に踏み切る。これが「日本熱源システムの現在」の基盤となった（克彦）。03年に現大阪支店工場（茨木市）を開業するなど順風満帆に見えたまさにこの時期、同社には危機が訪れていた。（敬称略）

▽所在地：東京都新宿区四谷1-6-1
代表者：原田克彦氏
創業：87年（昭62）1月
▽資本金：4500万円
▽従業員：125人
▽売上高：51億円（22年9月期）